

広報

こだま

2013

Vol.15

【栗田病院 広報誌】

広報散歩

“薬を飲むことへの不安”を和らげる

フォーカス くりた人

介護福祉士 沢田 智絵

栗田病院レビュー

脇元先生講演会

ホームページリニューアル



有朋会・理念 ～私達の求める姿～

私たちの使命は、患者様、利用者様、ご家族様、地域連携機関、地域住民、有朋会職員と
いったあらゆる方々の「こころ」に、温かな（ホットな）灯りをともすこと、笑顔を増やし続ける
ことです。その使命を果たすことで、以下3つの姿を実現します。

1. 医療・介護・福祉を統合した高品質のサービスを設計・開発し提供し続けている。
2. スタッフみなが有朋会の一員であることに胸を張っており、患者様、利用者様、ご家族様に
質の高いサービスを提供している。
3. 働きたい・学びたいと希望する方が絶えることなく集まってくる。



医療法人社団 有朋会
栗田病院

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰505
TEL: 029-298-0175 Mail: yuhokai@yuhokai-kuritah.com
<http://www.yuhokai-kuritah.com/>



広報散歩

「薬を飲むことへの不安」を和らげる
薬剤師 鈴木弘道・中田智雄

栗田病院の薬剤部は従来の薬物療法（調剤業務）のみにとらわれず、チーム医療の中心として集団心理教育への参画にも積極的です。
今回は、薬剤部にお邪魔して、業務内容や業務への想いを語っていただきました。



薬剤師 中田 智雄

薬剤師 鈴木 弘道

まずはスタッフの紹介をお願いします

鈴木 現在、薬剤師男性2名、薬剤助手女性2名のスタッフで構成されています。
薬剤師は主に入院中の患者様への調剤、薬剤管理指導、心理教育への介入を業務としています。
薬剤助手の二人は調剤補助だけでなく様々なデータの管理など、細やかな視点で薬剤師の二人をサポートしています。



薬物療法・薬剤指導について

鈴木 薬物療法とは、薬剤を患者様に投与することで、病気の治癒、または患者様のQOLの改善を目指す治療です。精神疾患の治療にはこの薬物療法を中心としたものが多く、薬を正しく飲み続けることが大切です。自己の判断で服薬を中止したり、薬を飲みすぎたりするために症状を悪化させるケースはめずらしくありません。

「どうして薬を飲まなくなったのか？なぜ飲みたくないのか？」「患者様の想いにコミット（踏み込む）する事が私たちの使命であり、理事長からの期待でもあります。」と語る二人。薬物療法についてももう少し詳しく聞いてみました。

中田 薬物療法に不可欠なのが服薬指導です。服薬指導は患者様の抱える「薬を飲むことへの不安」を和らげる事を目的としています。そのためにも薬について知ってもらい、知識を深めてもらうことが重要です。
鈴木 精神疾患を持つ方の多くはコミュニケーションをとることが得意ではありません。それぞれの不安や想いを聞き出すまでが難しく、患者様との距離感を大切にしています。

中田 スタンスとしては患者様の想いに近づけるよう一歩踏み込む意識をしています。病棟内を歩いていると声をかけてくれる方もいますが、壁を感じる方もいます。そういった方とうまくコミュニケーションを取り合い、服薬に繋げることも私たちの大切な仕事です。

実際に薬剤指導を行って印象に残ったエピソードはありますか

中田 入院中治療に対して常に不満を漏らしていた方がいました。服薬指導を数回行ったコミュニケーションをとっていくうちに、その方の不満の裏には薬物治療に対する不安が隠されている事に気づきました。患者様の薬物に対する不安を医師に伝え処方調整が行われました。患者様にとっては、得体の知れない薬を飲みたくないというのが本音でしょう。何回も話を聴くことで、患者様との関係を築き、薬物治療に繋げることが重要です。関係を築けたのか、手作りのビーズのアクセサリをもらったこともありました。

集団心理教育での薬剤師の役割とは

中田 服薬指導を通して病気や薬の知識を提供するだけではなく、薬物治療に対しての想いや副作用について参加者で共有し、話し合いながら薬物治療を継続できるように支援しています。



鈴木 なかなか想いを話してくれない人はたくさんいます。病気の受け入れとの戦いなのだと思います。病気の理解、患者様の変化を見逃さず、その想いに踏み込むことが私たち薬剤師の仕事です。

どのようなところにやりがいを感じますか

中田 チーム医療を推進している為、職種間での情報共有も密に行われています。独特の視点を持って薬剤師としての特長性を活かします。

鈴木 院外活動として学会発表や講演会の参加を積極的にを行っています。さらには県の事業にも協力して

認知症の方への関わり

鈴木 認知症の増加は全国規模で深刻な問題となっているのはみなさんもご存じかと思いますが、高齢者は多くの薬を飲んでいたりすることがありますが、特に認知症の方は副作用などの体調の変化を訴えられないことが多いです。ですから、少しの変化を見逃さないよう意識することも大事です。服薬指導はご本人に行うこともありますが、ご家族に対することがメインとなることも多いです。BPSDの軽減など、今後のご本人の生活を見通し薬の調整を行うことも大切ですが、そのためには的確で迅速な情報収集が必要となりますが、そこまで手が回らないのが現状です。



認知症の方への更なる関わりは今後の薬剤部の課題のようです。

これからの薬剤師は

中田 「患者様の想いにコミットする。」私たちがそれを達成できたら、精神疾患を持つ患者様の人生が変わるのではないかと。長期間の治療が必要とされてきたが、その短縮に繋がるのではないかと。薬剤師として地域への介入・活動を目指したいです。入院中だけではなく、退院後も関りたいですね。

鈴木 認知症の方の早期発見、薬の管理、介護されている方の負担軽減など、薬剤師の関われる部分はまだまだあります。複数の医療機関にかかっている場合、うまく連携を取れておらず、薬を飲みすぎてしまっている患者様も少なくありません。

中田 薬物治療の水準は今後さらに上がってくると思っています。病院内外にとらわれず、薬への関心を広めていってほしいですね。

最後に「最高の医療を提供する為に」やりたいこととは山積みですね。」と語る二人でした。



フォーカス

くりた人



認知症対応型通所介護施設

クリクリ住吉

介護福祉士 沢田 智絵

当法人で介護福祉士として働く、現場職員の声をお伝えします。

法人でどのような活動を行っていますか？

認知症の方を対象としたデイサービスで勤務しています。

利用者様が可能な限り慣れ親しんだ自宅で生活を送ることができるよう、食事や入浴・日常生活上の支援や機能訓練など一人一人のペースに合わせたケアを日帰りや場合により宿泊にて提供しています。

またご本人様だけではなく、ご家族様の介護の負担軽減なども私たちの大事な仕事です。

統一したケアを目的として、担当のケアマネージャー、多職種との相談・連携を密に図り、チームケアをコンセプトに活動しています。

介護福祉士を目指したきっかけ

栗田病院に入職する前はヘルパーとして働いていたのですが、介護の仕事をしていくうえで自分自身の無力さや限界を感じる場面が幾度もありました。その度に、「この方をもっと知りたい」、「もっと色々な側面からケアの在り方があるのではないか」と思うようになり、その為にはまず専門的な知識と幅広い

い経験が必要だと感じるようになり、介護福祉士取得を目指しました。認知症について深く知りたかったのもその頃です。

印象に残っているエピソード

多くの方と関わる中でも、父と同世代の若年性認知症の男性のケースが一番記憶に残っています。

その方は毎日何かにイライラし、施設の中でも徘徊を繰り返していました。誰と居ても落ち着くことはなく、時に暴言・暴力や台所で包丁を探す行為も見られた為、他利用者様にも「こわい人」という印象を与えていました。ある日、その方と一緒に衣替えの準備をしていた時、シワもなく大切に保管されていたスーツや何着もの調理用白衣が出てきました。調べてみると、数年前まで板前さんとして包丁を扱っていた経歴があり、包丁を探す行為にも理由があった事を知り、その方の人生を少しだけ見たような気がして涙が溢れそうになりました。

その方にとっては当たり前に出来ていた事が、わからなくなったり出来なくなっていく事で毎日が自分との戦い、葛藤だったのだと思います。そんな時に、自分の言動に反省し、どこかで「認知症の人」と見えてしまっていた事に気付く、「認知症の人」ではなく、「二人の人間」で誰でもなり得る病気である事を再認識しました。この時の経験が、法人に入社した一つのきっかけでもありました。

利用者様の対応で気をつけている事

人によって生きてきた人生も違えば、性格・趣味・嗜好も違います。単に認知症といっても、発症した原因や種類もありますし、それによって症状や辿っていく経過も変わります。それらを踏まえた上で、一人ひとりに合わせた声の掛け方・タイミング・トーンにも気を付けています。人生の先輩として尊敬する気持ちも忘れません。そして、その方を知るために常日頃から

栗田病院レビュ

「精神障害者に共通する身体機能障害」その治療理論と治療の実際

講師・清泉クリニック専務理事 脇元幸一先生

6月14日（金）に理学療法士として慢性疼痛へのアプローチを中心に全国でご活躍されている脇元先生を講師として招き、講演会が開催されました。看護師・作業療法士を中心に多くの職員が参加しました。



今回の講演会では、精神障害を持つ方の動作の緩慢さや身体的な機能低下について、物理学的な視点からの考え方やアプローチの技法を学ぶことができました。私自身、身体系のリハを行う機会はそれほど多くなく、経験の少なさからの苦手意識もあつたのですが、実演を交えて講義をいただいたことでとても分かりやすく、さらにその効果を肌で感じることができました。今後、精神科領域でも身体的な障害を伴う方が増えていくことが予想されています。技術はまだ未熟ではありますが、今回の講演会で学んだ考え方や技法を少しでも今後の臨床に活かして行ければと考えています。

作業療法士 高橋功樹



講演会に参加し、「目からウロコ」でした。現代物理学という捉え方をしているのが、斬新で自分の考えを改める機会となりました。先生の実技を体験させていただきましたが、先生の手が触れ体をゆらすだけで筋肉の変化が感じられ、全体が緩んでいく様でした。「痛い」という事はストレスとなり、体幹や呼吸に影響することもわかりました。これから様々な「痛み」を訴える人々に接すると思いますが、その人達の心の痛みもとれる様にステツプアップしていこうと思いました。

看護師 薄井たまき

ら表情やしぐさ・言動をよく観察しています。出来ない事に目が向きがちですが、一人で出来る事、支援があれば出来る事が必ずあるので、それぞれに合ったケアを実践できるよう努力しています。

介護福祉士として：医療者として：

認知症介護は奥が深いです。同じ利用者様でも、今日成功した対応が明日また同じ方法で成功するとは限りません。だからこそ大変で挫けそうになる事もあります。その何倍も嬉しさのある仕事です。まだまだ未熟で知識も経験も浅いですが、今後も積極的に介護について学び、同じ部署はもちろん多職種の方ともコミュニケーションを深め成長していきたいです。

そして何よりもご利用者様・ご家族様にとって、そばに在るだけで「ホツ」とし、心が癒されたり、元気になるような存在になりたいです。



ホームページリニューアルのお知らせ

2013年4月、公式ホームページをリニューアルしました。

見ていただく方にわかりやすく、必要な情報を容易に得られるよう構成やデザインを一新しました。トップページのアドレスに変更はございません。今後もタイムリーな情報発信と内容の充実を図り、よりよいホームページ作りに努めてまいります。



▲リクルートサイト <http://www.yuhokai-recruit.com/>
▲公式サイト <http://www.yuhokai-kuritah.com/>



診療案内

外来担当医一覧表

受付時間 午前 8:00 ~ 11:30 / 午後 11:31 ~ 15:00
 診察時間 午前 9:00 開始 / 午後 13:30 開始

	診察室	月	火	水	木	金	土
午 前	1 診	安部	片野	安部	栗田	鈴木	水挽
	2 診	堤	高橋	堤	田口	堀	第3,5週 吉川 第2週 鈴木 第4週 安部
	3 診				木滝	太刀川	高橋
	5 診						田口
午 後	1 診	栗田					休診
	2 診		袖山	木滝		第2,4週 安谷屋	
	3 診		佐藤	竹下		渡辺	
	6 診					上月	

初めての外来受診・入院を希望される方へ

1. 電話で患者様の情報や現在の状況をご相談下さい。
2. 次にケースワーカー（相談員）が詳しい話を伺い、その後ご予約をお取りします。

※現在他病院を受診している、もしくは受診していた場合は紹介状が必要になります。

※当日の状況により、予約内容が変更になる場合がありますので予めご了承ください。

*精神科外来は完全予約制になります。

*当日のご予約は行っておりません。前日までにご予約をお願い致します。

予約電話対応時間 月～土（祝日を除く）9:00～17:00 TEL.029-298-0175

■=内科

関連施設

認知症専用デイサービス

「クリクリ瓜連」

〒319-2103 茨城県那珂市中里1365-7
 TEL.029-270-9550 FAX.029-270-9558

「クリクリ豊喰」

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰28-9
 TEL.029-353-2056 FAX.029-353-2057

「クリクリ住吉」

〒310-0844 茨城県水戸市住吉町20-6
 TEL.029-248-1001 FAX.029-248-0215

「クリクリ市毛」

〒312-0033 茨城県ひたちなか市市毛上坪1186-2
 TEL.029-275-0262 FAX.029-275-0263

「クリクリ青柳」

〒310-0004 茨城県水戸市青柳町3923-5
 TEL.029-231-7066 FAX.029-231-7067

グループホーム・ケアホーム

「くりの木荘」

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰1152-1
 TEL.029-295-7652

ケアホーム

「くりくり」

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰1152-1
 TEL.029-295-7680 FAX.029-295-7681

「くりあん」

〒310-0004 茨城県水戸市青柳町3429-2
 TEL.029-231-2280 FAX.029-231-2281

自立訓練(生活訓練)事業所

「くりの実」

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰505
 TEL&FAX 029-295-1834

アクセスマップ

